

綱 領

われわれJayceeは社会的・国家的・国際的な責任を自覚し志を同じうする者、相集い、力を合わせ青年としての英知と勇氣と情熱をもって明るい豊かな社会を築き上げよう。

JCI 福島JCニュース

FUKUSHIMA
JUNIOR CHAMBER
OF COMMERCE

—福島青年会議所新聞—

第5回信夫山パークランニングレース

～信夫山を桃色に染めよう～

2017年5月28日(日)



2017年5月28日、日曜日、「第5回信夫山パークランニングレース～信夫山を桃色に染めよう～」を開催致しました。本年も雲一つない晴天の下、1027名の方にご参加いただき、新緑の信夫山を爽やかに駆け抜けていただきました。本事業は、福島市のシンボルである信夫山の魅力を全国に発信すること、そして信夫山の魅力を高めることを目的に開催致しました。パークランニングレースのコースは、昨年と同様に護國神社をスタート・ゴールとする10km・5km・3kmの三つをご用意しました。それぞれ男女別の表彰とし、3kmについては小学生以下の子どもと大人のペア部門も設けました。どのコースも信夫山内の名所を通るように設定されており、タイムだけではなく、名所や眺望を楽しんでいただけたものと思っています。本年は、10kmコースには419名、5kmコースには187名、3kmコースには225名、3kmペアコースには98組196名が参加していただきました。毎年参加人数が増えてきていますが、それに連れて10kmコース参加者が大きく増えることとなっています。本格的なランナーの方の参加が増えてきているものと感じています。参加者の方には大会記念Tシャツと食ブースで使用できる400円分の食券を参加賞としてお渡ししました。食ブースは信夫山太子堂公園に展開し、福島産の食材を



ふんだんに使用したお弁当や惣菜、スイーツが提供されました。また福島名物の円盤餃子も提供し、非常に大人気でした。給水所では福島産のいちごがふるまわれました。開会式やレース後には川俣の山木屋太鼓の勇壮な演奏も行われ、参加者の皆様には信夫山だけではなく、福島の魅力を存分に味わっていただけたものと思っています。レース後は、小林香福島市長(代理)にもお越しいただきまして植樹式を催しました。第1

回大会からソメイヨシノの信夫山への植樹を続けてまいりました。本年はソメイヨシノを1本、イロハモミジ6本、サツキツツジを18株、シバザクラ120ポット植樹しました。シバザクラは子どもが植樹するのに最適なサイズでしたので、たくさんのお子どもが植樹を行いました。信夫山が花でいっぱいになるように今後も続けていきたいと考えています。植樹をした参加者の方々が自分で植えた木の成長を楽しみに信夫山を訪れるようになっていただければ非常にうれしいことです。本年は、県外からの参加者も多数集まりました。アンケートによると、参加者の93%の方が本事業に満足したと回答し、96%の方が継続開催を望んでいます。また、99%の方が信夫山の魅力を感じたと回答しています。そして、福島市市民の参加者のうち96%の方が、本事業を通じて福島市への地域愛を感じることができたと回答しています。アンケート結果からも、本事業を開催することができて本当によかったと感じています。最後となりますが、本事業の開催に際しては本当に多くの方々にご協力をいただきました。たくさんのご協賛、そしてたくさんボランティアの方々に支えられて無事に開催をすることができました。担当委員会を代表致しまして心より御礼申し上げます。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。





本年度、まつり継承委員会の青少年育成事業として、「出張わらじ教室」を開催いたしました。昨年度開催した際、非常に評判のよい事業で、本年は庭坂小学校、第三小学校、矢野目小学校、森合小学校、瀬上小学校の5校で実施致しました。この事業は、福島市の伝統文化である、暁まいりやわらじまつりを広く周知し、またその根底にある先人の思いや、成り立ちを子供達に伝える事を目的としており、わらじを作る事を通じて、ふくしまに根付くわらじ文化を身近に感じてもらえればと思い、事業を実施させて頂きました。



今回、事業に参加してくれたのは、小学校3～4年生の生徒さんで、ちょうど事業で地域文化を調べる授業があり、その一環として、我々の事業に参加頂いておりました。昨年から、一部の学校では、暁まいりでわらじを担ぐようにもなり、事業冒頭の説明では「かついだー」という元気な声が出るなど、非常に楽しい雰囲気で進める事が出来ました。多くの子供がわらじ作り初体験で、1個目は、「わかりませーん」「たすけてくださーい」「師匠へるぷみー」など声が上がっておりましたが、2個目になると、こつを掴んだのか、黙々と作成する子が多く、知らぬ間に3個目に挑戦していた子もおりました。

1足出来た子供達は、早速両足にわらじを履いてもらい、歩いたり、小わらじを担いだりしながら、わらじの感触を楽しんでいたようです。「チクチクする」「いたい」などの笑い声、「今日こ



れで家に帰る」などの猛者、そして、わらじを担ぎながら「わっしょい、わっしょい」という元気なかけ声、アンケート内容や子供達からの心のこもったお礼のお手紙を見ると、この事業やってよかったとしみじみ感じました。



ご担当頂きました、先生からも非常に評判がよく、大変満足頂いたというお言葉を頂きました。

この事業が、子供達の心に残り、将来大人になったとき、福島文化が彼らの誇りとなれば、これほど嬉しいことはありません。最後に、願わくは、この事業が、脈々と受け継がれ、多くの子供達にわらじを作った思い出を提供し続けて欲しいと思います。



第26回わらしっ子塾 ～サマーキャンプ～

2017年
7月1日(土)～2日(日)



2017年7月1日(土)～2日(日)の1泊2日で「第26回わらしっ子塾～サマーキャンプ～」を開催いたしました。今回は40名の募集人数に対し120名以上の応募がありました。残念ながらご参加いただけなかった方々を含め、今回お応募いただいた全ての方々に感謝申し上げます。また野菜収穫体験に対し畑を提供していただいた篠野良平様、また当日お手伝いいただいた多くのメンバーの皆様にも深く感謝申し上げます。

ふくしまの人財育成委員会では、今回「日常への感謝」をテーマとし、当たり前の中の毎日に感謝を見出してもらえることを目的としてキャンプを実施いたしました。

まず開催前に事前説明会を行い、その中で2016年度JCI Japan 少年少女国連大使に参加した大使に世界中が抱えている課題を講義してもらいました。そこでは毎日学校に行き、友達と遊び、ご飯を食べ、寝る、そしてまた明日がくるという平和で当たり前の生活を送れる地域は、実は世界にほとんどないというお話がありました。参加した小学生もそのことに驚きながらも、ほとんど年齢の変わらない子どもが世界平和を考えていることに感心していました。

開催当日は畑での野菜収穫体験、そしてキャンプを行いました。キャンプの中では様々なチーム対抗ゲームをしたり、魚(マス)のつかみ捕りをしたりしました。またサプライズで参加者全員に親



御さんからの手紙が手渡され、一人一人が親からの深い愛情を感じる時間となりました。夜は収穫した野菜を使った夕食作りやキャンプファイヤーをし、キャンプファイヤーでは自分たちが捕まえた魚を塩焼きにして食べ、命を食すことのありがたみも感じてもらいました。

今回参加してくれた子ども達の意見を聞くと、夕食作りが一番大変だったと答える子が最も多く、またそこに対し日頃の感謝を感じてくれたようでした。今回のテーマである「日常への感謝」、忙しい日常を送っていると大人でも気づきにくいことがたくさんあると感じます。福島の子どもの将来を担う子ども達が何事にも感謝の気持ちを持てる、そんな人財になっていってほしいと願っております。

最後に、当委員会ではまだふくしまの人財を育成するための事業が残っております。しっかりと残りの事業や他委員会の事業に取り組み、福島が魅力で溢れ、夢を育めるまちになるよう尽力していきたいと思っております。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。





まつり継承委員会

左から 檜村 圭亮 君
丹治 久仁 君
佐藤 海華 君

ふくしまの人財育成委員会

菊地 幸治 君



夢のまちふくしま創造委員会

佐藤 卓宏 君



総務委員会

左から 太田 暁雄 君
菊池 謙 君

